

2) 算定日数上限後、リハビリテーション料を算定せず、診療を継続している患者数
 算定日数上限後、リハビリテーション料を算定せず、診療を継続している患者数についてみると、算定日数上限後、「消炎鎮痛等処置」など、リハビリテーション料以外の項目を算定し、診療を継続している患者数については855施設（病院630施設、診療所140施設、種別不明85施設）から回答があり、患者数は10,255名（病院6,597名、診療所2,924名、種別不明734名）であった。そのうち、リハビリテーション料以外の項目を算定しているが、ほぼ同じ内容のリハビリテーションを継続している患者数については371施設（病院266施設、診療所71施設、種別不明34施設）から回答があり、患者数は6,204名（病院5,095名、診療所678名、種別不明431名）であった。

図表 6.1-33 平成18年11月1ヶ月の間におけるリハビリテーション料算定患者のうち、12月以降も算定可能な患者数(病院)

算定日数上限後、「消炎鎮痛等処置」など、リハビリテーション料以外の項目を算定し、診療を継続している患者数(630施設)	6,597名
うち、リハビリテーション料以外の項目を算定しているが、ほぼ同じ内容のリハビリテーションを継続している患者数(266施設)	5,095名

※ これらの患者数は平成18年4月からの各施設において累積された患者数であり、また4分野全体での患者数である。

図表 6.1-34 平成18年11月1ヶ月の間におけるリハビリテーション料算定患者のうち、12月以降も算定可能な患者数(診療所)

算定日数上限後、「消炎鎮痛等処置」など、リハビリテーション料以外の項目を算定し、診療を継続している患者数(140施設)	2,924名
うち、リハビリテーション料以外の項目を算定しているが、ほぼ同じ内容のリハビリテーションを継続している患者数(71施設)	678名

※ これらの患者数は平成18年4月からの各施設において累積された患者数であり、また4分野全体での患者数である。

図表 6.1-35 平成18年11月1ヶ月の間におけるリハビリテーション料算定患者のうち、12月以降も算定可能な患者数(種別不明)

算定日数上限後、「消炎鎮痛等処置」など、リハビリテーション料以外の項目を算定し、診療を継続している患者数(85施設)	734名
うち、リハビリテーション料以外の項目を算定しているが、ほぼ同じ内容のリハビリテーションを継続している患者数(34施設)	431名

※ これらの患者数は平成18年4月からの各施設において累積された患者数であり、また4分野全体での患者数である。